

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード



夏の決算相場のポイントとは？

重要イベント消化を機に戻りを試していた東京市場も外部要因軟化とともに二服。株価指数の動きも不安定で、全体観も傾け難いが、相場に短期調整は付きもの。この局面で過度に弱気になる必要もないだろう。

ただ、決算相場入りした米国市場に続いて、東京市場も来週から決算シーズンを迎える。全体観も決算シーズン特有の「神経質な展開」に陥りやすく、ここは個別視点で臨みたいところだ。

今回の決算相場のポイントは、3月期決算企業の第1四半期が業績開示の中心となるため、事前予想との比較はないものの、4月後半から5月前半の本決算時点よりも株価水準を落としている銘柄が多い点が挙げられる。

ゆえに、開示した第1四半期業績で事前予想となる第2四半期、通期予想に対して順調な進捗を示していれば、少なくとも前回本決算時点までの修正が見込まれるのではないか。やや円高水準にあり、外需関連は手掛けにくいのが、内需関連の見直し余地は大きいと言える。

そこで弊社では、今回の決算シーズンにおける投資戦略、銘柄アプローチをまとめた「厳選5銘柄付き緊急市況レポート」を発売することにした。厳選銘柄やレポートに興味を持たれた方は、弊社に直接問い合わせしてほしい。